

# 環研センターNEWS

令和2年8月号 山形県環境科学研究センター

今月号の記事

- 【お知らせ】 県内酸性雨一斉調査 参加者募集します / 【事業報告】 センター年報発行…………… 1
- 【ほっとNEWS】 水生生物調査 / 【お知らせ】 環境学習プログラム / 【環境ミニ知識】 水害廃棄物…………… 2
- 【各部紹介】 環境化学部 / 【事業報告】 調査研究所内意見交換会…………… 3
- 【事業報告】 廃棄物担当者研修 / 【職員自己紹介】 …………… 4

## 【お知らせ】 県内酸性雨一斉調査 参加者募集します

「やまがた酸性雨ネットワーク」は、県内の大学や試験研究機関等が広く情報交換を図り、県内の酸性雨（pH5.6以下の降水）の状況把握や酸性雨対策を推進するために平成13年に設立されました。

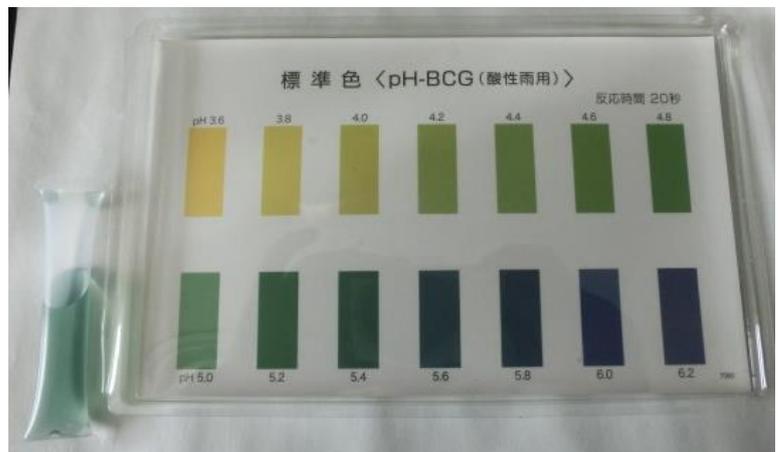
酸性雨一斉調査は、ネットワーク事業の一つで、小中高生・市町村やネットワーク会員及び一般県民の協力を得て実施しているもので、毎年11月頃に調査をしています。調査内容は、事前に配布する簡易水質検査キット（写真参照）により色の比較で期間中に降った雨のpHを調べるもので、参加者の方には調査方法を分かり易く説明させていただきます。

令和元年度は、県内88地点、340試料で調査を行ったところ、pHの平均値は5.2（前年と同程度）、全降水の87.9%がpH5.6以下の酸性雨という結果でした。調査の詳細については、県ホームページ「令和元年度酸性雨調査結果」で公表していますので、是非ご覧ください。

今年度も11月に調査を実施する予定です。どなたでも参加できますので、県内各地域から多くの参加をお待ちしております。

問合せ先 大気環境部 担当：松林（電話：0237-52-3127）

<https://www.pref.yamagata.jp/ou/kankyoenergy/053001/joho/sanseiunet.html>



簡易水質検査キット

※採取した雨のサンプルを薬液で発色させ、色を比較することでpHを判定します。

## 【事業報告】 センター年報を発行しました

当センターでは、施設や組織等の概要、各部の業務や各分野における調査研究、事業等を年度ごとに取りまとめた年報を発行しております。

このたび、令和元年度版の「山形県環境科学研究センター年報（第27号）」を7月に発行しました。

年報は当センターホームページに掲載しておりますので、ぜひご覧ください。

（ダウンロードもできます。）

山形県環境科学研究センター 年報で検索又は次のアドレスからどうぞ。 【ブナ・ナラ豊凶調査の様子】

[https://www.pref.yamagata.jp/ou/kankyoenergy/053001/about\\_center/nenpo.html](https://www.pref.yamagata.jp/ou/kankyoenergy/053001/about_center/nenpo.html)



## ほっとNEWS ～水生生物調査実施中！～

前回の環研センターNEWS5月号でも紹介しました“水生生物による水質調査”大好評実施中です！

ただ、今年は新型コロナウイルス感染症の影響や、大雨など増水による延期や中止も多かったため、例年より参加者が少なくなっています。でも、今年は調査期間を延長し、10月末まで調査を行っています！秋空の下、屋外でのびのびと、水生生物調査をしてみませんか？

さて、5月号のクイズの答えです！！

この水生生物（右の写真）は、“ヤマトビケラ”の幼虫でした。小石で作った巣の中において、石の表面などにくっつき、巣に入ったまま動き回ることができます。石の塊が動き回るようで面白いですよ、皆さんも探してみてください。（^）



## 【お知らせ】 環境学習プログラムの実践

環境学習プログラムは、身近な環境資源や人材を活用し、地域で子どもたちが学習できる機会づくりのため、主に学校以外の場面（放課後子ども教室、放課後児童クラブ、町内会、子ども会、PTA学年行事等）を想定して作成したのですが、もちろん小中学校の授業等でも活用されています！

環境教室として、センター職員が小学校に行って環境学習プログラムをもとに先生をすることも多く、座学のほか、実験や工作なども行い、一人ひとりが実際に体験できる内容となっています。参加した児童からは、“面白かった”だけでなく“環境についてとても理解できた”“これから身近なところから取り組んでいきたい”など好評です。

テーマも全部で9つになり、山形県環境教育指針や、学校の先生の「ESD（持続可能な社会づくり）の授業づくり」研修でも、環境学習プログラムについて取り上げてもらっています。これから環境学習が、ますます皆さんの身近なものになると嬉しいです！



テーマ：「水資源の保全について」

## 環境ニ知識 ～水害廃棄物について～

近年、日本各地で大雨による水害が多発しています。山形県においても毎年のように水害が発生していますが、令和2年7月の豪雨災害は記憶に新しいところです。被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。

水害に見舞われた場合、家庭から災害廃棄物が発生します。以下に注意して処理を行ってください。

- ① 市町村の指示に従って分別を行いましょ。〔災害廃棄物を速やかに処分するためには、適切に分別することが大切です。自宅の片付けの際できるだけ分別してください（冷蔵庫の中身（食品や容器）もしっかり分別！）。思い出の品を残すためにも有効です。〕
- ② 熱中症、感染症対策を取りましょ。〔水害は暑い時期に発生しやすいことから、片付けの際は熱中症に気を付けましょ。また、災害廃棄物には泥が付着しているので、手洗いを念入りにし、感染症にも注意してください。〕
- ③ 片付けは焦らず確実に。〔災害廃棄物には、鋭利物や突起物など思わぬ危険が潜んでいる場合があります。事故の無いよう、焦らず確実に作業を行いましょ。〕

## 各部紹介(環境化学部)

環境化学部では、ダイオキシン類対策特別措置法及び廃棄物処理法に基づき、ダイオキシン類による環境の汚染状況に関する調査（常時監視）、ダイオキシン類の発生源検査（排ガス、排水など）を行っています。また、環境中（河川や湖沼の水、水底の泥、土壌）や廃棄物関係の放射性物質の測定、環境放射能水準調査（原子力規制庁委託事業）、化学物質環境実態調査（環境省委託事業）を行っています。

今回は、その中から“**ダイオキシン類の発生源検査**”について紹介します。

ダイオキシン類は主に物の燃焼により発生しますが、廃棄物焼却炉においては燃焼を適正な条件で行い、ダイオキシン類の発生を基準値以下に抑えなければなりません。

また、燃えがらやばいじん等の最終処分（埋立）が行われる管理型最終処分場では、処分場内から出てくる水（降雨などにより必ず発生）を適切に処理して、ダイオキシン類を外部に放出しないようにしなければなりません。

これらの発生源に対して基準を遵守しているかを確認するため、県は定期的な立入検査を行っています。令和元年度の検査結果では、排出ガス、ばいじん、放流水のすべてで基準を満たしています。



【上：ダイオキシン類の分析（前処理）】



【左：排出ガスのサンプリング  
煙突の上と煙突の下での作業】

## 【事業報告】 調査研究所内意見交換会

各職員が調査研究を行っている次の課題5件について、その途中経過を職員に発表し、これまでの経過に対する質疑や意見の交換により、今後の進め方や、課題点を情報共有する場として、7月7日に「調査研究に係る所内意見交換会」を開催しました。

- ①水害廃棄物発生量推計手法に関する調査研究（西塚一茂）
- ②災害廃棄物等の適正処理に資する化学物質迅速測定法の開発（澤泰裕）
- ③酒田港調査における数値モデルを用いた水質将来予測（小林幹彦）
- ④県内の光化学オキシダント実態調査（梅津貴史）
- ⑤光化学オキシダント予測手法に関する検討（大河原龍馬）

出席した職員からは、多くの質問、意見や提案等が出され、今後の調査研究の新たな出発点になったようです。

これらの成果については、本県の環境施策や廃棄物処理計画の策定などの基礎データとして用いられます。



## 【事業報告】 廃棄物担当者研修

7月16日に令和2年度環境行政担当者研修会（廃棄物対策業務新任者コース【現地研修】）を開催しました。

例年、この研修会は4月に法令解説を主とした座学形式で実施していますが、新型コロナウイルス感染禍により座学研修を中止し、廃棄物処理施設を見学する現地研修として実施しました。

研修会では、管理型最終処分場と焼却施設の構造や処理工程等について、事業所職員から詳しい説明を受けるとともに、当センター担当者を講師に立入検査等におけるチェックポイントを確認しました。特に造成工事中の管理型最終処分場では、埋立処分開始後には見ることができない構造を理解することができました。



研修内容は今後の廃棄物対策業務の執行に有意義なものになったようです。

最後に、この研修に御協力いただきました事業所の皆様にあらためてお礼申し上げます。

## 職員自己紹介

センターに赴任して3年目になりました、水環境部の千島といいます。（よく千鳥と間違われますが。）県内の河川や湖沼、海（正式には公共用水域といいますが）の水質測定結果の取りまとめを担当しています。

水質には、BOD（有機物による汚れの指標）やカドミウムなどの項目について環境基準値が設定されていて、基準値を超過したときには総合支庁の環境課と一緒に現地調査を行うなどして、原因や対策を考えています。

最上川をはじめ県内の河川の水質は、測定を始めたころに比べてとてもきれいになっています。県民のみなさまの環境を守る様々な取り組みによるものと考えています。

これからも山形県の水環境を守るため、一緒に頑張りましょう！

（センターでは、県内の主な河川について水質速報値をホームページに掲載しています。）



## 編集後記

5月号の編集後記で、“環境教室の動画配信も計画しています。”とお知らせしましたが、実は6月に、“環境科学研究センター公式YouTubeチャンネル”を開設しました！センターホームページから御覧ください。まだ公開している動画は2本だけですが、現在どんどん動画を撮影して編集中です。お楽しみに！（^）



《編集》山形県環境科学研究センター

住所 村山市楯岡笛田三丁目2-1 TEL 0237-52-3124 FAX 0237-52-3135

ホームページ <https://www.pref.yamagata.jp/ou/kankyoenergy/053001/>

ツイッター <https://twitter.com/tunakanyamagata>



ホームページ



ツイッター